第2回オープンAPIに関する動向調査会　議事要旨

公益財団法人　金融情報システムセンター

1. 開催日時
2023年7月19日(水) 10:00～12:15 (FISC会議室 及びWebexによるWeb会議形式)

2. 議事内容
議事次第（添付省略）に従い、はじめに、金融機関の3先より、各先が展開しているAPI を利用した金融サービスの内容や課題等について、その後、金融機関の1先より更新系APIの新たな活用領域について、業界団体の1先より更新系APIに関連する課題について、それぞれ講演が行われた。
講演ごとに、更新系 API 導入に伴うセキュリティリスク対策に関する課題や、管理・対策上の論点等について、参加者間でフリーディスカッションを行った。

3. フリーディスカッションにおける主な議論（テーマ毎に整理）
(1) 更新系APIの接続
即時口座振替や振込に関する更新系 API の接続方法についての工夫や、API 接続における仕様確認等に代表されるコミュニケーションコスト等に関して、多くの質疑が行われた。主な発言は以下のとおり。
① 接続完了までの時間短縮を企図して、ソフトウェア開発キット（SDK)の公開や、サンドボックス環境やテスト環境等の提供により、接続事業者側が仕様等を事前に学習できるようにしている
② 更新系APIに関する知識向上や、新しいアイデアを具体化する場として、サンドボックス環境を利用するハッカソンを実施している
③ コミュニケーションコストへの対応として、「接続事業者が自社の口座だけにアクセスする接続」と「第三者による送金指図を行う接続」で確認レベルを変えているほか、ヒアリングシート・チェックシートの改良とサンドボックス環境・テスト環境等の提供によってコスト削減を進めている
④ 法人向けのAPI接続では、特定日の接続頻度が高まる傾向にある。そのため、各社毎に設定したキャパシティを事前に提示するとともに、実際の接続状況を踏まえ、効率的な接続方法があればそれを提示・協議している
⑤ 更新系APIを提供している金融機関が少ないことや、接続事業者の更新系APIの管理コストが高止まっている等の要因により、API 接続を Web 連携に変更する接続事業者が存在する
⑥ 銀行APIの仕様差異に関する接続事業者からの不満の声に対し、共通基盤を介して銀行と接続事業者を接続し、仕様の差分を吸収している。ただし、これにより接続先のリスク評価等が簡略化されるわけではない

(2) セキュリティ、利用者保護

セキュリティについて、API 接続の内容によりレベルに差をつけている事例と、差をつけず一律のレベルを求める事例、他団体の情報発信を参考にしている事例の紹介があった。紹介および質疑における主な発言は以下のとおり。

① 更新系 API のセキュリティについて「自社利用」と「第三者指図」の 2 通りに整理して、それぞれ適切な対策を講じている）
② 金融 ISAC が整理したオープン API のセキュリティリファレンス集や、JPCERT/CC が提供する API 関連の最新情報を参考にしている
③ 外部へ接続する API と、自社内部やグループ会社等に接続する API のセキュリティは同レベルを求めている
④ 接続に関するビジネスロジックを悪用するケースへの対応も、セキュリティ同様に注意が必要である
⑤ 接続事業者側でシステム上の問題があった場合に、即時にシステムを停止できる仕組みが有効である
⑥ API 接続におけるセキュリティ強度の高い接続の標準化等が確立できると、関係者が安心して対応できるのではないか

(3) 認証と UX の追求

UX と本人認証のベストマッチを課題としつつ、多要素認証等、各社の戦略に基づく認証方式の紹介があった。紹介および質疑における主な発言は以下のとおり。

① 認証を接続事業者側で行う
② 金融機関の IB で実装済の認証を利用する
③ 口座開設時等で実施した認証を継続的に利用する
④ 接続先や取引内容、取引頻度等によって認証を変更する

(4) 銀行での API 活用による収益化

更新系 API の活用において先行している金融機関の収益化に、関心が寄せられた。これに対し、更新系 API 実装による収益化が見込めるという意見があったる一方、経営戦略として API そのものの収益化を見込んでおらず、関連する事業と合わせ総合的な収益確保を目指すとの意見があった。紹介および質疑における主な発言は以下のとおり。

① API ラインアップとして、無料と有料の双方を提供している
② BaaS、及び Embedded Finance による連携において収益化を見込んでいる
③ 自社のアライアンス戦略を具体化・具現化していくツールとして、BaaS や API 等の手段を利用している
④ API 自身での収益化は見込んでおらず、付随する為替・融資といった銀行商品の中でマネタイズしていく
⑤ 更新系 API によって振込・引き落としが自動化することで、接続事業者自身のコスト削減が見込めることから一定の需要があるのではないか。こうしたケースでは更新系 API の接続による、金融機関の収益化に成功することもあるのではないか

(5) 課題・期待・その他

更新系 API を実装する上での課題や、課題を解決する案等について意見交換が行われた。主な発言は以下のとおり。

① コミュニケーションコストの一つとして、各社が使用する用語の差異が多いことが挙げられる。統一化が必要ではないか

② リスク管理については、各社がリスクベースアプローチによって検討していることから、API の仕様等の細部までの統一は困難ではないか

③ マイナンバー等、公的機関が保有する個人情報の取扱いにおける API の共通化・社会インフラ化により、現在、金融機関にとって負担が大きい本人確認や KYC、AML 等のコスト削減が可能なのではないか

④ アグリゲーター等、ハブ機能を有する存在が、金融機関毎の API 仕様の差異の吸収や、認証方法の収斂の一助になる可能性があるのではないか

⑤ 更新系 API に関する競争領域と協調領域の区分けを行うことで、より活発な議論ができるのではないか

⑥ 金融サービスの組み合わせによるエコシステムの構築の一つとして、API への期待値は高い

⑦ 接続事業者における、更新系 API の具体的なニーズや取組み等を知る機会があるとありがたい

4. 今後について

2 回の動向調査会を通じて、オープン API における具体的な課題を確認した。今後、事務局において、参加者の動向や意見を踏まえて、当該調査会の在り方を検討していくとともに、引き続き業界動向の調査等に取り組んでいく。

以上